

港に吹く海風が潮の香りをいっぱいにふくんで、優しくほおをなでてくれます。今日は僕たち卒業生のためにこのような場をつくっていただけ、ありがとうございます。

今思えば三年前、着慣れない制服に身を包み、この場所のこの席で入学式を迎えたのです。たくさんの方々の来賓の方々や中学校の先生方、その中には小学生の時、教室の入り方が悪いと指導して下さった先生もいらっしやいました。そして、まさかの、その先生が担任の先生だとわかり、僕たちは、初日からドキドキびくびくしていたのを今では懐かしく思い出されます。

式の中で、中期のリーダーの責任や、しっかりと勉強すること、そして部活動では心身ともにきたえ、いつも周りの人に感謝する気持ちを忘れないことを誓いました。あのとき誓ったことがすべて達成できたかどうかは分かりませんが、非常に充実した三年間だったと、満足しています。

三年間を振り返って記憶に残る大きな行事といえ、ワクワクワークと修学旅行でしょう。

ワクワクワークでは、卵屋で、パック詰め、レジ打ちを経験しました。また、卵焼きを作ったり、店で食事の準備をして、お客さんに定食を出したりもしました。また、フランス料理店で給仕や皿

洗い、食事のマナーを学んだ人、旅館で宴会の準備をしたり、接客を学んだ人、総合病院で、手術の現場を見たり、リハビリや薬剤師の仕事など、様々な病院業務を学んだ人、老舗の和菓子屋で、立ちっぱなしでシール貼りやパック詰めをし、商品の搬入などを学んだ人がいて、それぞれ、学校を離れ、多くの体験をしました。

これらを通して、学んだことは、二つあります。ひとつはコミュニケーションのとり方です。自分を知らない人との最初のきっかけはこのコミュニケーションだと思っています。人間関係をうまくつなぐ力になるからです。最初は声も小さく、コミュニケーションにはほど遠い感じでしたが最後はしっかり声を出せるようになりました。そして、二つは失敗は隠さずにはっきりさせることです。僕は、最初それができずにうっかり忘れてしまったことをお店の人に言えずにいました。でも、失敗してもそれをきちんと話し、反省することが大事だと教えていただき、いい勉強になりました。そして最後に「もつといてほしい。」と言われたときは、とてもうれしくて、一人前になったら、お礼にいきたいと思います。

ひとときわ大きく、そして最高に楽しい思い出として、未だに忘れられないのは、やはり修学旅行です。僕たちの行き先は東京でした。行き先が決まってから、準備は大変でしたが、やっている時から、わくわくしていて、その日が来るのがとて

も待ち遠しくてたまりませんでした。

修学旅行での初めての体験は様々なハプニングを引き起こしました。僕は、空港の手荷物検査場で何度もブザーが鳴り、引き返し持ち物を没収されました。また、東京の電車は福岡に比べて停車時間が短く、最後に付いてきてくださっていた副任の先生が、電車のドアにはさまれてしまい、校長先生が一生懸命引っ張って助けようとして、ちよつとした騒ぎになりました。また、もうじき閉鎖される築地では、ガイドの方が「ここには昔から大きなねずみが生息しているんですよ。」と言われた瞬間、天井の電線を猫のように太ったねずみ走り、ここでも大騒ぎでした。

そんなこんなで始まった修学旅行。東京はどこからともなく、人がわいてきて、怖いくらいの人流でした。道行く人の足並みは速く、うかうかしているとは飲み込まれてしまいそうです。

宿泊したのはオリンピックセンター。二年後、東京オリンピックが行われますが、昭和の東京オリンピックの選手村です。建物は古いけれど、意外に多くの利用者がいることに驚きました。殺風景でしたが、二段ベットではなく、広くて思ったよりは、快適でした。

次の日は、校長先生の提案で、朝六時から、代々木公園まで散歩に出かけました。寒かったけれど、東京なのに空気が澄んでいるように感じられ、気持ち良かったのをおぼえています。

その日は、東京の観光スポットをまわりました。東京タワーの上では、床がガラス張り、透明になっているところがあり、みんなでのってスリルを味わいましたが、紗良さんだけは遠くからそれを眺めていました。高いところが苦手で、そばによることもできなかつたのです。浅草を散策し、隅田川下りをしましたが、遊び疲れた僕たちは、全員爆睡してしまい、せつかくのガイドを全く聞いていないという始末でした。

しかし、国会議事堂見学は、一番興味深く勉強になりました。普通の見学では入れない場所にも通行パスをいただき、最近、話題の働き方改革法案の論議がされている、あの部屋で総理大臣の座るイスに座ったり、質問や答弁のマイクの前に立ったりもしました。また、地下通路を通って議員会館にも入らせていただき、有名な国会議員さんが名を連ねる部屋にも伺いました。こんな体験は、二度とないかもしれないと思うと、最も貴重で最も印象深い場所になりました。

学ぶことが多く、初めてだらけの旅は、マナーや文化の違いを実感した。貴重で、楽しく、そのうえ、小学校からずっと一緒だった五人にとって最も強い絆ができた素晴らしいものとなりました。本当に有意義な旅だったと思います。

思い出深いといえば中学校最後の一年間です。最後の文化祭、最後の運動会と、最後という言葉がつく行事ばかりになりました。

文化祭は、少し長い劇になりましたが、脚本選
びは九年生がやりました。主役も僕たちが率先し
てすることにし、学習文化委員長の琴波を中心に
劇の練習計画を立て本番まで何度も練習を重ね
ました。九年生にとっては、保育所から発表して
きた文化祭の最終発表ともいえるものです。どう
しても成功させたかったし、さすが中学生、とい
われるものにしたくて、例年以上に、頑張りまし
た。本番は地域のみなさんにほめて、いただき本
当にうれしかったです。

大きな行事の二つ目は全島運動会です。僕と大
夢さんが団長を務め、女子と協力して演舞やダン
スを完成させました。最初の頃はまとまりがなく
飽きやすい小学生をどう教えるかが課題でした。
それでも後半になると、少しずつ集中力が持続す
るようになりました。でも応援演舞の練習は時間
との戦いでした。赤も白もよい物を作ろうと必死
で、その思いがみんなをどんどんひとつにしてい
き、勝敗はありましたが、満足感と達成感で心地
よい疲労が僕たちを包みしました。

最も長い時間費やし、情熱を注いだものと言え
ば、部活動のバレーボールです。例年の人数不足
が解消し、男女共に正式参加が可能になりました。
女子は、筑前大会を目標に、十一チームを勝ち
抜けるよう、三人の顧問の先生と聖也コーチに
叱咤激励されながら、毎日練習に励みました。何
度指導されても うまくできずに、何度も逃げ出

したくなりました。涙を流したことも、悔しくて眠れなかったことも一度や二度ではありません。そのおかげで、目標は達成できませんでしたが、悔いなく全力投球のプレーで、最後の大会をおえることができました。

男子は、新チームになり、新人戦頃から大会で優勝することが増え始めました。筑前大会は三位で惜しくも目標の県大会の切符を逃しましたが、今年こそは、五年ぶりの夏の県大会出場が目の前にあるように感じられました。中体連が近づくと、毎日、OBが練習に参加してくれました。最初は、全く歯が立たなかった相手でしたが、大会直前には、五分の試合をすることができるようになり、チームの成長を感じました。しかし、その道は甘くなく、五月を過ぎてから、なかなか勝てなくなりました。負けが続くと、焦りがチームの輪を乱すこともありました。不安が、自分のバレーを見失わせることもありました。真平コーチや三村先生の言葉に忘えられるよう必死に乗り越えようと思いました。夏の中体連宗像大会でまさかの準優勝。負けたことのないチームに完敗したのです。気持ちを切り替えて筑前大会にのぞみましたが、少しずつ狂いはじめた歯車は元には戻らず、勝ち進むことはできませんでした。でも、観客席はまるで決勝戦のように保護者やOB、島のみなさんが、大声援を送ってくれました。そんな中でプレーができたことは最高に幸せでした。また、一緒

に頑張って来た七、八年生、学校に泊まって遅くまで指導して下さった顧問の先生、そして、仕事が終わって食事もそこに毎日きびしく指導して下さった真平コーチ。引退した後も感謝の気持ちは決して消えることはありません。

思い出は尽きませんが、そろそろお別れの時が近づいてきました。

毎日、見守って下さった地域の皆さま、学校へ行くときは、いつも「いつてらっしゃい」帰ってくる時「おかえり」と声をかけてくれました。温かいこの大島を離れることは、寂しく心細いですが、また大島に帰ってきたときには、変わることなく接してください。

先生方、三年間という短い期間でしたが、勉強が苦手な僕たちに、熱心に指導していただき、ありがとうございます。そのおかげで、無事に全員、第一志望の高校への内定が決まり、希望に胸を膨らませています。高校では、その期待に恥じないよう、しっかり精進し、成長した姿を見たいです。

最後に保護者の皆さま、僕たちをこれまで大切に育てていただき、ありがとうございます。意見が合わず、ケンカをしましたが、自分のために言うてくれていると思いつながら無視することもありませんでした。でも、なかなか面と向かって言えませんが、本当にありがとうございます。まだまだ少し迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いしま

す。

四月からは、新しい生活がスタートします。五人それぞれが違う環境で、違う道を進みます。そこには新しい出会いが待っているはずです。どんなときも、温かい人柄や僕たちを育ててくれたこの大島の海を思い出し、前進していきます。

今日はあいにくの曇空ですが、あがらない雨はありません。晴れない空もあります。この美しくすみ渡った大島の空と海のように、真っ直ぐに淀みない心で歩いていきます。

平成三十年三月九日

卒業生代表

河野 渚